

まだまだ
ある



共助のアクション



日ごろから培ってきた 地域とのつながりがいざという時の力に

ゆりの木通り商店街 ● 静岡県浜松市

「まちからマスク」は、出店者への協力依頼からポスター、販売店MAPの制作、集計まで手作り品バザールの運営を担う女性3人が力を合わせて実現した

自分たち
らしさが
大切!!



女性メンバーを
中心に
がんばったね!



3 つの組織から成る浜松市のゆりの木通り商店街は、マスク不足が騒がれた4月、「まちからマスク made in ゆりの木通り」の取組みを開始した。まず第1弾として、縫製品を扱う店が布マスク製作に乗り出す。それを商店街が発信すると、あっという間に売り切れた。そこで第2弾は、近隣在住のハンドメイド作家に協力を仰ぎ、手製マスクの委託販売を行った。商店街は10年以上前から年に2回「手作り品バザール」を実施、そこで培った作家たちとのつながりが、急場を救った。「33人の作家さんが、地域の人々の安全を考

えながらつくったマスクが、1077枚も売れました。ゆりの木通りに来れば洒落たマスクが手に入ると、皆さんに喜ばれました。次回の開催も検討中です」とバザール実行委員長を務める田町東部繁栄会会長の鈴木基生さんは語る。今後は、地元の大学とのつながりも活かし、学生発案のオープンテラスの取組みなどを実施する予定だ。「特色を消すことなく、いかにコロナの世界を生き抜いていけるか。ただモノを売るだけでなく、モノを支える背景や価値に出会える街として、らしさを追究していきたい」と商店街は考えている。

PICK UP

かわいいデザインと
秀逸なネーミング。
PRもすべて手づくり

あたたかみのあるデザイン



マスク販売店のお知らせマップ。閑散としていた通りに、マスクを求め人出が増えたことで、商店街全体が、勇気づけられたように感じたという



こどもが描かれた柔らかいタッチのチラシ。「まちからマスク」のネーミングからは、「街が“安心安全”の源になる」という強いメッセージも受け取れる